

学校運営協議会活動状況報告書（令和7年度）

「有識者による評価（第三者の視点）」

学校評価報告書を拝見し、教育課程、個別支援、進路指導、地域連携、学校運営の各側面において、着実な改善と実践の積み重ねが見られる点を高く評価します。特に、ICT活用の推進やアセスメントに基づく支援体制、進路に関する丁寧な情報共有などは、児童・生徒一人ひとりの学びと生活を支える基盤として重要な取り組みであると感じました。

その中でも、地域との交流や共同学習の充実に力を入れている点は非常に意義深く、隣接する学校との継続的な関係づくりが進んでいることは、インクルーシブ教育の実現に向けた具体的な一歩として評価できます。

私自身は、今後は支援学校で学ぶ子どもたちも、より一層「地域の中で共に学ぶ」体制が整っていくことが望ましいと考えています。その意味で、本校が既に取り組んでいる小学校や高等学校との交流を、単なる行事的な交流にとどめず、教育課程に位置付けた継続的・発展的な学びへと深化させていくことが重要です。これは報告書でも指摘されているように、「単発のイベントから系統的・持続可能な取組へ」という方向性と一致しており、今後の発展に大いに期待しています。

また、保護者アンケートにおいてインクルーシブ教育の取組が「分からない」とする回答が一定数見られた点からも、学校の先進的な実践が十分に可視化・共有されていない可能性がうかがえます。今後は、地域住民や保護者、関係機関に対して、実践の意図や成果を分かりやすく発信していくことが、地域全体で子どもたちを支える基盤づくりにつながると考えます。

さらに大学教員の立場からは、こうした実践を神奈川県全体、さらには全国へと広げていくために、実践の体系化やエビデンスの蓄積、外部機関との連携による検証的研究の推進も期待されます。特にICT活用や個別支援の好事例を共有・分析し、再現可能なモデルとして発信していくことは、特別支援教育の質の向上に大きく寄与するでしょう。

加えて、学校運営においては、教職員の働きやすさに関する課題（肯定的回答が十分でない点）が示されており、持続可能な教育実践のためには、業務改善と専門性向上を両立させる体制づくりが重要です。教育の質は教職員の余裕と専門性に支えられるものであり、この点の改善は喫緊の課題であると考えます。

最後に、本校の取組は、地域とともに子どもを育てるという観点から、すでに「地域を変えていく教育」の段階に入りつつあると感じます。今後はこの実践を神奈川県全体、そして全国へと広げ、ダイバーシティと共生社会の実現に向けたモデル校としての役割を果たしていくことを強く期待しています。